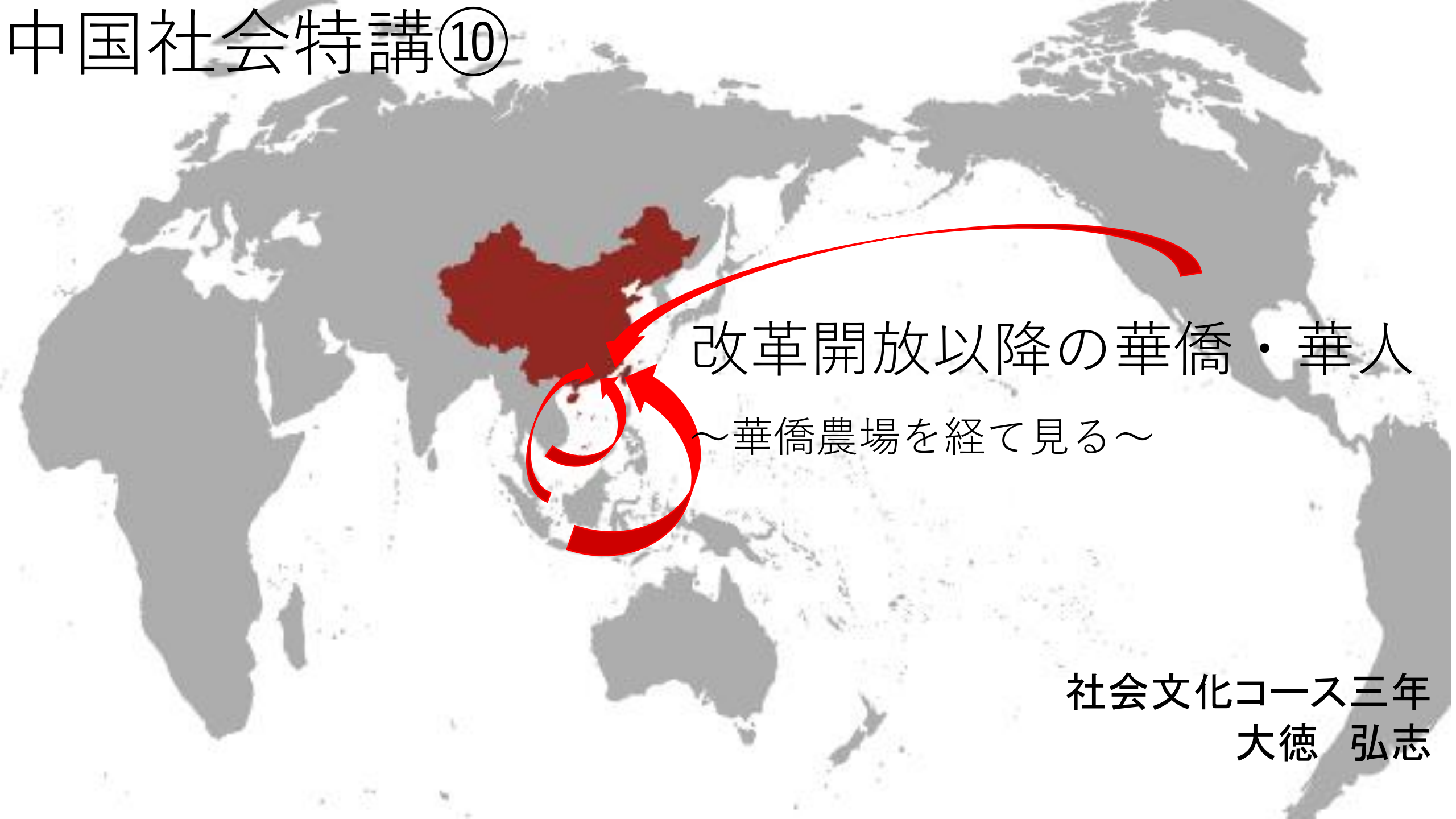


中国社会特講⑩



改革開放以降の華僑・華人

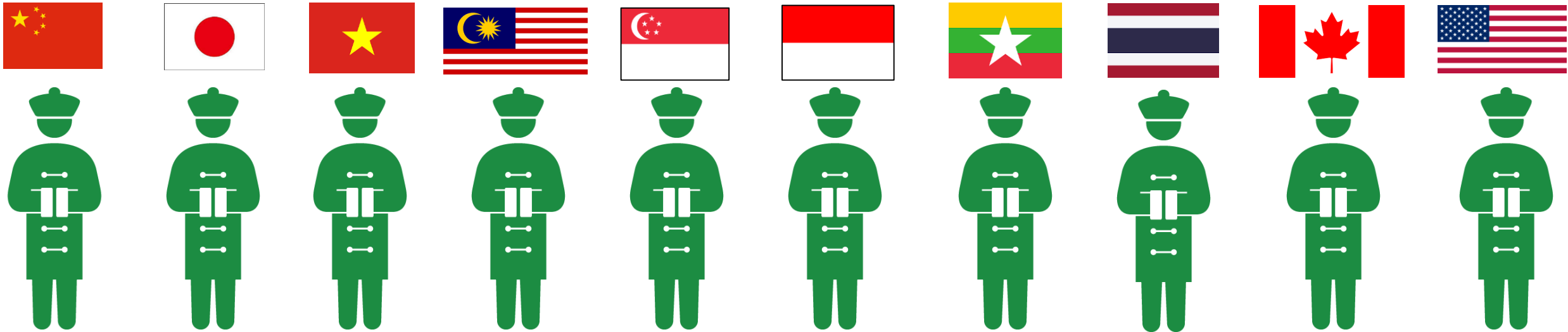
～華僑農場を経て見る～

社会文化コース三年
大徳 弘志

華僑・華人とは

- 華僑・・・海外に住んでいる中国国籍を持つ中国人
- 華人・・・海外の国籍に変換した中国系住民

※帰国華僑・・・主に東南アジアに移住していた華僑・華人がそれら諸国内部の民族間の争いや国際情勢で起こった華僑排斥運動で迫害を受け、やむを得ず大陸中国に帰国した華僑



①中国政府の帰国華僑政策と華僑農場

- ・ 中国政府は広州、汕頭、湛江、海口など華僑が入国する港に受け入れ機関を設置した。
- ・ 1960年～61年までの受入れ人数：福建3万1000人、広東5万4000人
- ・ 中国政府受け入れの目的：

「華僑が国の経済建設のために働きかけてくれることを願っていた」

華僑は中国と海外を結ぶための重要なパイプラインとしての役割と中国政府は考えていて彼らを彼女らを重要視してきた。

- ・ 広東、福建、広西、雲南に華僑農場を建設、しかし大した成果を出すこともなく、1996年華南80か所のうち64か所の農場が赤字となった。
- ・ 1980年代以降、農場初期にいた華僑いなくなった後、その子女たちが主な労働力となったが都市に移って就職する者が多く農場内の人口はじょじょに減少した。



②華僑農場の政治・経済構造

- 改革開放以降、中国政府は華僑農場を農村改革と同じ扱いで改革していくことを明確にした →農場の経営管理権を各地方政府に委ねる

- 「鎮場合一」モデル:

華僑農場を基礎に鎮(海僑鎮)を建設し、共産党政府を設けるが農場の看板は残り地元社会に組み入れながら経済発展をすすめる計画

- 看板を掲げる理由:

1. 近隣の鎮に吸収されることを防ぎ、経済的自立を維持するため
2. 公共施設の費用の負担を軽減するため

③帰国華僑の優遇政策と「本地人」との関係

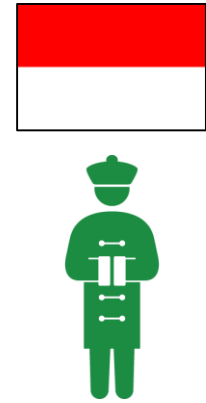
- 「八五計画」 1991～2002年(住宅改革)

- 1.現在住んでいる家屋、あるいは自分で新しい家屋を建設、購入したい場合、帰国華僑は購入費用のうち28%のみ負担、非帰国華僑は35%負担。
- 2.退職した者には6m²を無料提供。
- 3.自分で家屋を建てそれを他人に売却する場合、購入者は30年の使用権が与えられる。

結果：一人当たりの住居面積が7m²から30m²まで拡大

- そのためか、帰国華僑は優越感を感じていて、さも当然だと思っている
- 「愛国心ゆえに帰国したと主張しその行動の見返りとして国家の優遇を期待する」
- 「ほとんどの帰国華僑が地元の人々と付き合いおらず、自分らの文化や言語を維持し、華僑グループに属しているという意識をもっており、自分たちが特殊であるという意識を持っている」

④帰国華僑の帰還体験



- 1.インドネシア帰国華僑
- 帰国理由：(a)華僑排斥運動に遭遇 (b)中国語学習のため自ら進んで、あるいは父母の勧めで帰国
- 1950年代～60年代にインドネシアで政府主導の華僑排斥運動が発生、中国政府は船を派遣して華僑を救援。お金のあるものは中国に戻らず、インドネシアから直接シンガポール、カナダなどに渡った。
- 救援時の状況：
「(前略)仕方なく帰国した。排斥運動がなかったら帰国したくなかった。船の中ではずっと“社会主義好！”の歌が流れていた。」
すでに帰国華僑らに対する中国イデオロギーの注入が始まっていた。
- 1978年文革終息時、政府は彼ら彼女らに中国に留まるか、元移住先国に戻るかの選択権を与えた。



- 2.ベトナム帰国華僑
- 1977年初め、ベトナム政府は中国からベトナムに移民した人々を中国境内に戻ることを強要した。中国はベトナムに排斥をやめるよう進言したが排斥運動はより一層激化した。
- 排斥運動時の状況：※中国のメディア資料のため、公正さに疑問が残る
- 「川を渡るときベトナム軍人や警備員に追われ、殴られた。」「軍人に銃で胸を突かれ、両手をねじられ、担いでいたイモを奪われた。」etc.
- 1977年11月頃、約2000人の華僑がベトナムからやってきたが、三分の二が再び再移住していった。農場も出入国管理局もベトナム帰国華僑が出ていくのを黙認していた。
- しかし1981年、香港政府は大陸からの帰国華僑を難民と受け入れず彼らを強制送還
- 「ベトナムから直接来たと言ったら受け入れてくれたが、中国から来たとわかったら送還された。」